

## 体外受精の電子管理システム導入の効果

佐藤学、佃笑美、松本由香、宮本有希、中野達也、中岡義晴、森本義晴

### (目的)

培養室業務は体外受精の管理、凍結胚の管理、運用の管理とくにチェックなどのシステム構築などが挙げられ、当院では 2012 年まで紙媒体を主とした業務形態をとっていた。それぞれのシステム乱立のため業務は次第に煩雑となり管理が難しくなっていた。また、ダブルチェック主体の確認体制にもヒューマンエラーを防ぐためには限界があった。そこで検体バーコード認証、体外受精管理、凍結検体管理を一括で管理可能な電子システム導入に至った。

### (方法)

(株)TMRシステムズの IVF 管理システム「WISH」をベースに当グループの運用に合わせカスタマイズを行い、2013 年より運用を開始した。患者、使用器具、凍結器具などはバーコード認証による管理を、またシステム上に体外受精情報を入力し、院内端末で状況確認をモニター可能に、凍結検体の状況、在庫管理機能などを同一システム上で確認が可能になった。

### (結果)

体外受精の一連の作業確認はリアルタイムで記録され院内のどこからでも確認ができるようになり紙媒体での連絡はほとんどなくなった。取り間違い防止対策の一環で、作業場所の個別化や、ダブルチェックに加え認証システムが導入されたことにより、より安心な作業が可能となり培養士のストレスも軽減している。凍結融解時も手書きの管理台帳がなくなり、入力間違い、凍結保存場所を探す手間の削減や認証ラベルにより融解間違いを未然に防ぐことが可能となった。患者は、本人確認のシステムが明確であること、治療周期の結果をわかりやすく確認ができ、より安心な治療が受けられ、顧客満足向上につながっている。

### (考察)

システム導入により、多くの IVF 業務を安心安全に作業できる環境が整い、業務の効率化、ヒューマンエラーをシステムでカバーできるようになった。しかし PC への依存度が上がり、PC なしで作業できない状況になり、非常時などの対策は十分にとる必要がある。